宮沢賢治作品「人首町」の詩碑 地区民の力で建立 桜満開、青空に鯉のぼり泳ぐ 増ケ丘で 和やかに式典

宮沢賢治が人首町を二度目に訪れたのは、大正13年3月 24日である。その日は勤務先の花巻農学校の卒業式の翌日 で、釜石線鱒沢駅で下車し、鮎貝を経て五輪峠を越え人首町 の菊慶旅館に投宿している。大正6年も含め2度目の投宿。 翌日25日早朝菊慶旅館から人首町を眺め、人首橋付近で

五輪峠方向を眺めながら周辺を散策し、「人首町下書き稿」を記したと思われる。

いつかは建立したいと思い続けていましたが、昨年の夏に会員からの提案で詩碑建立実行委員会を立ち上げました。目的は①子ども達・地域の人達の賢治作品への入口となり、やがて文学への一つの道筋になっていくこと②世界の賢治ファンの「詩の散歩道」の一つに③やがて来るであろう I L C の研究者の方々を迎える文化的基盤作りの一端にもなることでした。又、今年は宮沢賢治生誕 120 年の記念すべき年でもあるということもあり、新たな一歩を踏み出すことができました。

色んな苦労がありましたが、実行委員の根強い取り組みで地区民3分の2以上から賛同を得、 多くの寄付を募ることができました。不足分は米里振興会(会長平塚誠厚氏)より町づくり事業 の中から助成をして頂き、工事一切を地元の小菅石材店に依頼し、今回の建立となりました。

尚、詩の揮毫は宮沢賢治に縁のある方にということで、宮沢賢 治の実弟清六氏のお孫さん宮沢和樹氏の奥さんの宮沢やよい氏に お願いし、詩「人首町」が生まれた3月25日に建立することが できました。

4月24日には桜が満開で正に春爛漫のもとで、80名程の人が 集まり除幕式を行い、共に歓びあいました。式典には宮沢賢治実

弟清六さんのお孫さん夫婦にもお出でいただき、地元の皆さんはとても喜んでいました。除幕は市長(代理)・宮沢和樹様・利府米里文化財調査委員会様・平塚振興会長・山崎実行委員長が行いました。除幕の後、詩「人首町」の朗誦を急遽宮沢やよいさんにお願いしたところ、快く引き受けていただき、素敵な朗誦で皆さんから大喝采でした。委員長の式辞の後、市長さん(代理)と宮沢和樹さんに祝辞を頂きました。宮沢和樹様には「詩人賢治さんと実弟清六さんの温かい間柄について」の貴重なお話をしていただきました。尚、最後に米里保育園の園児による「雨ニモマケズ」の朗誦でしたが、これまた皆さんから大喝采。しばらく振りで壇ケ丘も賑わいました。尚、建立した壇ケ丘(通称ダンナガネ)は階段が急で高齢者には大変ですが、人首町自治会と本小路の方々が協力して造ったお年寄りのための「壇ケ丘への小道」があるので、現地で案内板を見てください。





















增分品周辺[





0. 10.000 0.000 10.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000

















